

2023年度 日本工学院専門学校											
放送芸術科											
映像リテラシーE 2											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	山田素子			実務経験	有	職種	制作				
担当教員紹介											
放送業界で製作業務に従事していた 放送作家・構成作家・ディレクター											
授業概要											
この講義では視覚芸術に対する知識と理解を深めることを第一目標とする。多様な芸術作品に触れることで視野が広がり、映像作品に対する理解が促進される。 作者や時代背景、作品の解釈、造形の特色など、理解を深めるために不可欠なトピックを取り上げ、現代社会で生み出されている、視覚芸術の重要な源泉を辿る。											
到達目標											
歴史的・社会的背景などこれまでの美術作品を取り巻く環境に注目しながら、映像作品にどのような影響を与えたのかを考察する。答えがひとつではない、アート作品（現代美術）を能動的に捉え、世界で起きているムーブメントやアートシーンを通して社会における芸術の意味を探る。またサブカルチャーなど文化的背景から芸術の本質に迫る。											
授業方法											
古典的な美術作品と現代の美術作品など常に比較しながら時代や文化的背景について考察していく。特に作品のコンセプトを考える事で自身の考えを文章化・理論化するためにディスカッションなどを取り入れ、コミュニケーション力を身につける。											
成績評価方法											
①試験&課題：50% 試験と課題を総合的に評価する ②提出物：30% レポートなど授業内容の理解度を確認するために実施 ③平常点：20% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価											
履修上の注意											
レポートやディスカッションを重視する。但し授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。また、主体的に授業に参加する事を徹底し、プレゼンなどの発表の際は積極的な態度受講する事を求める。（詳しくは、最初の授業で説明）。さらに授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
必要な場合は授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	「美学」とは 美の観念・存在・感性について										
第2回	芸術の誕生① 宗教と美術作品の結びつきについて										
第3回	芸術の誕生② ルネサンス～近代美術について										
第4回	芸術の誕生③ 近代芸術、ポストモダン										
第5回	現代アート① 20世紀芸術運動とモダニズムの検証										

2023年度 日本工学院専門学校	
放送芸術科	
芸術論	
第6回	現代アート② ポピュラーカルチャーとポップアートの誕生
第7回	現代アート③ ポップアートとサブカルチャーの定義
第8回	サブカルチャー世界論（日本のサブカルチャー原点、江戸）
第9回	サブカルチャー世界論（60年代アメリカ ヒッピー、サイケデリック他）
第10回	サブカルチャー世界論（パンクロック、グラフィティ、ミュージックとアートの融合）
第11回	社会的背景とアート（マイノリティ、ゲイカルチャー他）
第12回	社会的背景とアート（コミュニティ、アートプロジェクト他）
第13回	映像的アート作品①（世界のCM、広告、MV）
第14回	映像的アート作品②（映像作品を軸にディスカッション）
第15回	まとめ 産業芸術と芸術、アーティストとは？